新文化　2025年6月25日付

複写・転送禁止

新　文　化　（昭和26年1月29日　第3種郵便物認可）　第3614号　（通算4025号）

PubteX 返品削減・売上拡大へ加速

〝三層構造〟基盤に改革

渡辺順社長が描く近未来といま

IoT&AI　AIロジック　製造と物流

データやAIを活用して業界最高水準を目指すサプライチェーンソリューション、RFIDを活用したIoTソリューション「BOOKTRAIL」で、サプライチェーン全体の改革を推進するPubteX。同社の動きがここにきて加速している。AIサプライチェーンソリューションにおいては今年2月、株主出版社以外に販売を開始し、すでに5社程度が参画意向を示している。「BOOKTRAIL」においては導入済の書店は119店舗で、新たに参画意思を示す書店は今年に入って89店舗増加したが、ここにきてアニメイトが全店舗への順次導入を決め（6月11日既報）、300店舗規模になることが決定している。広がる「BOOKTRAIL」の輪、いま、なにが起きているのか。同社の渡辺順社長を訪ねた。出版流通改革を巡る進捗のほか、今秋をめどにPubteXの株主である大手出版社3社が書店にRFIDを装着した出版物を直送する計画があることも明らかになった。

（本紙・丸島　基和）

渡辺順社長

「業界3者の適正利益配分について議論されていますが、その原資がなければ十分な分配もできません。当社は出版界においてその原資となる返品削減と売上拡大を実現することを使命として設立され、2024年よりAIサプライチェーンソリューション「IoT&AI」。出版ソリューションの提供を開始しました。改めてこの使命を果たすことを目指しています。当社の存在意義があると考えています。そのためには筋肉質なプラットフォームを構築することが重要。それは必要な本を必要な時に必要な量だけ作り、運び、売ること。Pubt eXが目指すそこである」――渡辺社長はそう話る。

同社長が「出版流通改革」の理想像として参照するのがアパレル会社のZARAだ。ZARAは取扱商品にRFIDを装着して早期に成長軌道に乗せた。各種データをモノづくりやトレンド、製造、物流戦略に落とし込み、営業利益率を20%近くにまで伸ばしている。

「季節ごとに売れるという商品を見極めて即時発注、各国への出荷を司能にする基盤を構築した結果だ。営業利益率が平均5%程度といわれるアパレル業界にあって、ZARAの数値は際立っている。Pubt eXが目指すべき構造もデータを集めて使えるようにする「IoT&AI」。出版業界が〝ヒット作品〟から脱しきれない、「目玉商品がないから」「配本の精度がフォレストリンクスが出資して創立された、書店の参画法人・店舗数は着実に広がっている。紀伊國屋書店、有隣堂、蔦屋書店、大垣書店、リライアブル、三省堂書店など、32法人・119店舗が「BOOKTRAIL」を導入している。

今後は掲載点で三洋堂書店など、新規法人への導入が決まっている。そして今回、アニメイトが全124店舗への順次導入が決定したことで、300店舗規模への到達が確実となった。

出版界が〝ヒット作品〟から脱しきれない、「配本の精度が悪いから」に代わる客観的な根拠をPubteXのソリューションに求める書店がが増えてきた。ここにきてRFIDを含めて冊当たり単価に置き換えたもので、実際に単価が30円以上に値上がったという情報が一部で流れているが、渡辺社長は「それは否定する。それは高い返品率を前提としてコストを回収する高い返品率を前提としたコスト構造にしているということが問題の本質であり、返品率を減らすことこそが問題を解決するのが同社の目標である。

出版社側の参画については、「市況の悪化」「取次会社による運賃協力金」「紙代などのコスト増」といった経営環境と重なり、判断に時間を要している。コミックスを刊行する14社とビジネス書に強い日経BPの計15社が参画している。RFID装着したコミックス・文庫はすでに約3万タイトルに及ぶ。

データ集めモノと連動「行動変容」が最も重要

IoT&AI　AIロジック　製造と物流

データ集めモノと連動させる。三層構造〟が基盤となっている。第一層は、データを集める。専用リーダーで梱包状態のまま検品でき、棚卸しも短時間で完了できる。

「RFIDはデータを登録センター（T-PRO）の書誌データを生成AIで読み込ませ、信頼できる外部データと組み合わせることで、該当出版物のデータをAIで解析し、書店と出版社の双方に最適な推奨値を提供する。

例えば、福岡県全舞台に「著者の出身地やゆかりの地」などのデータを自動生成ット年齢層が20代、「モノ」作品の舞台「著者」などの推奨値を提供する。

社はまさにこの見真い合わせて、「ターゲ積み上げて精度を改善していく必要があるが、同社は現在、福岡県全舞台に「著者の出身地」などのデータを自動生成ット年齢層が20代、「モノ」作品の舞台「著者」などの推奨値を提供する。

第一層はモノ（ライフ「商圏」「地域の人口動態」「沿線」などのデータを成しているデータを集める。ポイントはこれらのデータを「自動」で生成で集めるための手段」（渡辺社長）だが、これだけ登録センター（T-PRO）の書誌データを生成AIで読み込ませ、信頼できる外部データと組み合わせることで、該当出版物のデータをAIで解析し、書店と出版社の双方に最適な推奨値を提供する。

第二層はデータを正しく活用する「AI＆ジャック。第三層で集めたデータをAIで解析し、積み上げて精度を改善していく必要があるが、同社は現在、これらの行動要件に応じて即日搬数を供給する責任をもって取り扱い物を責任をもって流通する。これらの行動要件によって初めて返品率が下がり、売上げを最大化し、得られた原資を実見内で再分配できる。

BOOKTRAIL

導入300店舗規模に

大手主要書店が続々参画

22年、PubteXは講談社、小学館、集英社、丸紅、丸善ジュンク堂書店、紀伊國屋書店、有隣堂、蔦屋書店、大垣書店、リライアブル、三省堂書店など、32法人・119店舗が「BOOKTRAIL」を導入している。

今後は掲載点で三洋堂書店など、新規法人への導入が決まっている。そして今回、アニメイトが全124店舗への順次導入が決定したことで、300店舗規模への到達が確実となった。

出版界が〝ヒット作品〟から脱しきれない、「配本の精度が悪いから」に代わる客観的な根拠をPubteXのソリューションに求める書店がが増えてきた。ここにきてRFIDを含めて冊当たり単価に置き換えたもので、実際に単価が30円以上に値上がったという情報が一部で流れているが、渡辺社長は「それは否定する。それは高い返品率を前提としてコストを回収する高い返品率を前提としたコスト構造にしているということが問題の本質であり、返品率を減らすことこそが問題を解決するのが同社の目標である。

出版社側の参画については、「市況の悪化」「取次会社による運賃協力金」「紙代などのコスト増」といった経営環境と重なり、判断に時間を要している。コミックスを刊行する14社とビジネス書に強い日経BPの計15社が参画している。RFID装着したコミックス・文庫はすでに約3万タイトルに及ぶ。

今秋 書店〝直送〟へ

大手出版3社　RFID装着出版物

国は昨年6月「書店の最終回では、経営者が「RFID」について返品削減にとどまらず、製造・流通・販売のサプライチェーン改革全体に不可欠な「データ基盤」と命感だ。

その具体的な一手として、株主である大手出版社3社が秋をめどに注文流通分の一部の書籍を書店に直送し始める計画が明らかになった。「BOOKTRAIL」に参画する書店の一部に直送し、PubteXが進める真の流通改革の第一歩となる。

「いま必要なのは実行力」〝改革意思のある書店〟と

整理した。今年4月より書店からの補助金申請の受付も始まっている。

渡辺社長はこれまで業界内の様々な企業と密に情報・意見交換を重ねてきた。そのうえで、「いまよるデータ連携のもと、必要なのは実行力。行動で示して結果を出しますとシェアーズを変えたい」と。

「読者の期待にこたえる出版物の売上げを高めたい」――その思いは業界全体で共有されている。

この直送計画は改革意思のある書店とともに、PubteXが進める真の流通改革の第一歩となる。

漫画部数を参画書店へ直販機会を最大化する狙いだ。

搬送はすでに一部の書店で開始しました。改めてこの使命を果たすことを目指します。

「業界3者の適正利益配分について議論されていますが、その原資がなければ十分な分配もできません。当社は出版界においてその原資となる返品削減と売上拡大を実現することを使命として設立され、2024年よりAIサプライチェーンソリューション「IoT&AI」。出版ソリューションの提供を開始しました。改めてこの使命を果たすことを目指しています。当社の存在意義があると考えています。そのためには筋肉質なプラットフォームを構築することが重要。それは必要な本を必要な時に必要な量だけ作り、運び、売ること。Pubt eXが目指すそこである」――渡辺社長はそう話る。

同社長が「出版流通改革」の理想像として参照するのがアパレル会社のZARAだ。ZARAは取扱商品にRFIDを装着して早期に成長軌道に乗せた。各種データをモノづくりやトレンド、製造、物流戦略に落とし込み、営業利益率を20%近くにまで伸ばしている。

「季節ごとに売れるという商品を見極めて即時発注、各国への出荷を司能にする基盤を構築した結果だ。営業利益率が平均5%程度といわれるアパレル業界にあって、ZARAの数値は際立っている。Pubt eXが目指すべき構造もデータを集めて使えるようにする「IoT&AI」。出版業界が〝ヒット作品〟から脱しきれない、「目玉商品がないから」「配本の精度が悪いから」に代わる客観的な根拠をPubteXのソリューションに求める書店がが増えてきた。ここにきてRFIDを含めて冊当たり単価に置き換えたもので、実際に単価が30円以上に値上がったという情報が一部で流れているが、渡辺社長は「それは否定する。それは高い返品率を前提としてコストを回収する高い返品率を前提としたコスト構造にしているということが問題の本質であり、返品率を減らすことこそが問題を解決するのが同社の目標である。

出版社側の参画については、「市況の悪化」「取次会社による運賃協力金」「紙代などのコスト増」といった経営環境と重なり、判断に時間を要している。コミックスを刊行する14社とビジネス書に強い日経BPの計15社が参画している。RFID装着したコミックス・文庫はすでに約3万タイトルに及ぶ